

# 2024年度 法科大学院

## 第4期入学試験問題

### 4時限

## 民事訴訟法・刑事訴訟法

### (論文式)

## 試験時間合計 80分

#### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 必ず【民事訴訟法】の解答は【民事訴訟法】の解答用紙に、【刑事訴訟法】の解答は【刑事訴訟法】の解答用紙に、記入してください。また、必ず解答用紙の解答欄に一つずつ記入してください。解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

## [民事訴訟法]

### [設問]

- 1 控訴の利益の意義を説明した上で、どのような場合に控訴の利益を認めるべきかを論じなさい。
- 2 債権者Xが債務者Yに1,000万円を貸し付けたとして貸金返還を求める訴えを提起したところ、第一審裁判所が、Yの1,000万円の弁済の抗弁を認めず、消滅時効の抗弁を認めて全部棄却判決を言い渡したとする。この場合、Yは弁済の抗弁を認めるべきであると主張して控訴ができるかを論じなさい。

## [刑事訴訟法]

別件逮捕がどのような捜査手法であるかを説明した上で、「①別件基準説」と「②本件基準説」の対立を説明しなさい。さらに、①説と②説の対立を踏まえて提唱された新たな見解(③)の内容と特徴について説明しなさい。